



論作文の達人が 伝授する 3つのポイント

まずは論作文の書きかたについて、達人にご指南いただこう。
佐藤正志先生の3つのポイントはこれだ！

I 論作文が完成していないひとの3つの特徴

教員採用試験まで、あと2か月となりました。これまで、長い期間にわたって準備をしてきたにも関わらず、この時期に論作文対策が完成していない人、論作文に対して不安をもっている人には、次のような傾向があります。あなたは、これらに当てはまっていませんか。

1 論作文の型が身に付いていない

論作文は、短い時間で問題に対する考え方や具体的な方策を論理的で説得力のある文章で書きあげなければなりません。問題を見てからどのように書こうかと考えるのでは、時間内に合格する論作文を書き上げるのは不可能です。まず何を書き、次にそれを受けてこれを書きという自分自身の論作文の構成を固めておく必要があります。それが、論作文の型です。その型が身に付いていないから、不安が大きいのです。

2 いろいろな課題に手を出しすぎている

論作文で出題される可能性のある課題やテーマは、数えきれないほどあります。論作文の練習で、まず「いじめ」の課題に取り組んで、次は「不登校」、その次は『アクティブ・ラーニング』……とやっていると、きりがありません。それどころか、そのどれもが中途半端に終わってしまいます。その結果、論作文に自信をもてないまま試験当日を迎えてしまうことになってしまうのです。

3 情報過多で振り回されている

論作文では、出題された課題の背景や重要性を書き込むことが必要です。しかし、そうした教育課題の背景や重要性はひとつやふたつに限定されるものではありません。「いじめ」の問題を例にして考えてみましょう。「いじめ」の原因としては、思いやりの心などの道徳性の欠如、人間関係を構築する能力の不足といったことが考えられます。しかし、現代社会のひずみ、家庭や地域の教育力の低下、教師の力量不足、学校組織の硬直化といったことをその原因として挙げる専門家もいます。それらは、どれも間違いではありませんが、そのすべてを論作文に表現することはできません。情報が多すぎると、原稿用紙を前にして何を書いたらよいか迷ってしまいます。論作文を作成するための情報は、必要最低限で構わないのです。